

詩・地域文学

和田 健

山口市
(1915～2013)



撮影・下村鳴川（平成11年10月11日 其中庵にて）

【著作】
評伝『氏原大作伝』（昭和44・氏原大作顕彰会）
詩集『瀬のある風景』（昭和60・こだま詩社）
解説『山頭火よもやま話』（平成13・私家版）
ほか
【関連情報】
〔共 著〕『ふるさと紀行』、『山口吉敷歴史物語』、
『山口県近代文学年表』、『仁保の郷土史』
〔その他〕校歌、町歌、音頭、園歌、小・中・高の
課題曲の作詞等。

詩集『へその耳』には、和田健の詩の特徴がよく現れている。目に見えるものや行いが、隣の人に話しかけることばで、分かりやすく表現されている。それによって、作者の中に秘められているものが、ことばの意味を超えて、知らず知らずのうちに読者の心を揺り動かしている。時流に迷わされず、七十年以上にわたって自分の道を求め続けた人の、詩の力である。

へその耳

（前略）
赤ちゃんは
お腹の海の中で
お母さんのへその耳から
聴いているかも



詩集『へその耳』

胎児の生き方を女性に質問することから始まって、「へその耳」に至る。胎内にある「へその緒」に対する好奇心と「へその耳」が外界に向ける好奇心とが重なって、生命の瑞々しさが伝わり、この詩集の名にふさわしい。他人の詩や、詩の団体の活動に対しても、個性や作風の違いを超えて、理解の努力を惜しまない。いろいろな機会に、詩に関心のある人々を、暖かく、厳しく指導して、有望な作者を育てた。一九六四年に結成し、約三十年間代表を務めた山口県詩人懇話会は、今も毎年、『現代山口県詩選』を発行している。

現代詩の分野を離れても、自由律俳句の種田山頭火、小説の氏原大作等、郷土の文学者の研究を幅広く行っている。山口県の文化の歴史には、はっきりと足跡を残した一人である。

その活動の原動力の一つは、年齢を重ねても衰えることのない好奇心であったと思う。

（文・陶山祐二）



2004年11月27日（長門峡にて） 撮影・大来静枝



一和田が朝の客人である鳥たちを待つ
自宅近くの樫野川べり一

足るを知る

川のほとりに住んで四十余年
引越して来た頃は
水泳が出来た流れも
河川改修で様変わりした
それでも葦が繁り
水鳥もやってくる
鷺・鴨は常連
鳥や鳶の餌付けも
朝の日課となつて久しい
一日一回 珈琲を喫し
夕餉にはグラスに二、三杯
足るを知る日々に甘んじ
齢を重ねて八十二年
次々と周辺の若い世代は
家を建て替えるが
わが家は今も昔のまま

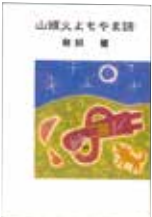
詩集『へその耳』より

和田は、自宅近くを訪れる鳥たちを
「朝の客人」としてもてなし、温かい眼
差して見守っていた。

和田 健 年譜

大正4（一九一五年） 大正10（一九二二年）	六歳	1月10日、福岡県門司市（現・北九州市）で生まれる。 本籍の山口町（現・山口市）に帰り、今道尋常高等小学校（現・白石小学校）に入学。
昭和4（一九二九年） 昭和6（一九三一年） 昭和8（一九三三年） 昭和13（一九三八年）	一四歳 一六歳 一八歳 二三歳	小学校高等科卒業。県立山口図書館に出納手として勤務。文学書に親しむ。 吉田常夏主宰の西日本総合文芸誌『燭台』に詩を発表。 詩誌『草笛』同人。
昭和14（一九三九年） 昭和17（一九四二年） 昭和20（一九四五年）	二四歳 二七歳 三〇歳	『詩園』創刊、編集スタッフ。 中原中也生家に出入りし、一方、種田山頭火と交わる。 第一詩集『生活の貌』刊行。詩人、丸山薫の勧めで『四季』の会員となる。 山口市役所に勤務。以後退職まで、福祉、社会教育関係のポストを歴任し、総務部長となる。
昭和24（一九四九年） 昭和28（一九五三年） 昭和35（一九六〇年） 昭和39（一九六四年）	三四歳 三八歳 四五歳 四九歳	戦後、『文芸風土』創刊とともに同人、詩欄を担当。郷土の文学運動に携わる。 詩集『風媒花』（こだま詩社）刊行。
昭和44（一九六九年） 昭和45（一九七〇年） 昭和46（一九七一年） 昭和47（一九七二年） 昭和49（一九七四年） 昭和50（一九七五年）	五四歳 五五歳 五六歳 五七歳 五九歳 六〇歳	『和田 健 詩集』刊行。第4回山口県芸術文化振興奨励賞受賞。 杉本春生らの推挙により、日本詩人クラブ会員となる。 山口県芸術祭「現代山口県詩選」刊行のため、山口県詩人懇話会を結成、代表となる。
昭和53（一九七八年） 昭和60（一九八五年） 平成3（一九九二年） 平成4（一九九三年） 平成9（一九九七年）	六三歳 七〇歳 七六歳 七七歳 八二歳	『氏原大作伝』（氏原大作顕彰会）刊行。 増補『和田 健 詩集』（こだま詩社）刊行。 毎日新聞「山口県版」はがき随筆」の選者となる。（以後38年間） 山口市役所を定年退職。退職後、地元の宮野公民館長を3期6年勤める。 『防長文学散歩』刊行。（翌年、白藤書店より増補新版を刊行。） 山口県選奨を受ける。『防長紀行 いでゆの旅』（マツノ書店）、『郷土の文学・本と人』（条例出版）刊行。 文化庁創設10周年記念にあたり、文化庁長官表彰を受ける。 詩集『瀬のある風景』（こだま詩社）刊行。 地方文化振興の功により、勲五等瑞宝賞を受ける。 山口県警機関誌『防長警友』（4月号）に「山頭火よもやま話」の連載を開始。（平成12年7月号まで100回） 日本詩人クラブ永年会員表彰を受ける。『語りつぎたい山口昔話』（山口県ふるさとづくり県民会議）編著。
平成13（二〇〇二年） 平成14（二〇〇三年） 平成25（二〇一三年）	八六歳 八七歳 九八歳	『山頭火よもやま話』刊行。 詩集『へその耳』刊行。 11月24日死去

【参考文献】『山頭火よもやま話』（平成13年刊行）



『山頭火よもやま話』『語りつぎたい山口昔話』



詩集
『瀬のある風景』『郷土の文学・本と人』



増補新版
『防長文学散歩』
増補
『和田 健 詩集』

（提供・陶山祐二）